

令和2年3月



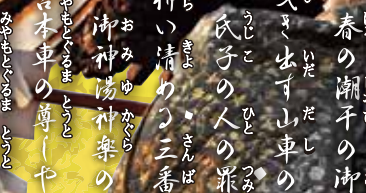
●からくりの解説／大菩薩に弟子入りした唐子が幾多の困難と苦行の中で荒技を会得し、小唐子は五段の乱杭を歩いて渡ります。大唐子は大はしゃぎで扁額に変身し、悪霊を祓います。4~5人の人形方が数個の滑車と無数の引き糸等で操作します。

●所作の解説／大唐子と小唐子2体で構成され、小唐子はバランスをとりながら、足乱杭を渡る離れ技をします。大唐子は状況に合った言葉が書かれた小唐子に素早く2～3回変身します。

いとこ かけふ  
糸切り風吹くお川の  
はるいちばん おんさけい  
春一番の神祭礼  
いりみのみや いだ  
入水宮にき出す  
あらいやま えん  
濱井山にて演ずんば  
らんぐいど からこ  
乱抗渡りの唐子なり  
うじこ みなさま  
氏子の皆様、笑聲 しやうらこ

名古屋を中心とした尾張  
特徴の一つとして、からくり  
車があり、全国の山車からくりの  
この尾張地方に存在します。山車からくりの仕組  
は、糸からくりと離れからくりの二つに分類され  
ます。糸からくりとは、人形の内部に仕掛けた糸  
の操作で演技します。離れからくりとは、差し金  
歯車、ぜんまいなど体内に機械仕掛けのある人  
形が、人間の手を離れて演技します。

- 製作者／荒川宗太郎
- 製作年／昭和7〔1932〕年
- 由緒／弘化5〔1848〕年の祭礼図にもあるので、この頃にはすでにからくりがありました。

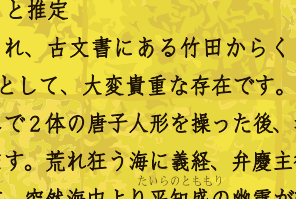


鶴も来て舞う魚崎 はる ともきてまをういささき  
 春の團子の御祭 はる とうこのきまつり  
 曳き出す山車のや ひきたし いだだし  
 父子の人の衆と うぶここのひとのしゆと  
 柿の清のうさぎ曳 はる かいのきよのうさぎひき  
 おみゆかたの おみゆかたの  
 神降陽神楽の有 かみふりやうがくらのあ  
 宮本車の尊一や みやもとくるまのとういちや  
 三本車の尊一や さんぽんくるまのとういちや

- 製作者／不明
- 製作年／不明 弘化5〔1848〕年以前より存在します。  
現在の人形は昭和49〔1974〕年に復活し、  
平成31〔2019〕年春に造り替えられました。
- からくりの解説／2人で十数本の糸を操ります。
- 所作の解説／竹田からくりの演目のひとつで、  
桜の枝に吊された綾を伝って2体の唐子が  
渡っていきます。前後に体を揺すりながら、  
その反動で手と足を交互に綾棒に掛けながら  
唐子が次々と渡る様はハラハラドキドキ・・・  
観客の目を捕えて離しません。

りんごのやうに しま  
 琉球の島はわてたい鳥  
 こがね こがね  
 ます  
 黄金の柵にてよれ計 はか  
 シヤノシヤノ子供よ こども  
 シヤノシヤノ子供よ  
 花 はな が見たくは よしの 吉野へ

- 製作者／不明
- 製作年／天明年間[1781~1789]と推定
- 由緒／「生きた化石」とも云われ、古文書にある竹田からくりの傀儡師、船弁慶の唯一の残存例として、大変貴重な存在です。
- からくりの解説／傀儡師が箱を通して2体の唐子人形を操った後、場面転換して船弁慶の物語が始まります。荒れ狂う海に義経、弁慶主従の乗る船が木の葉のように揺れます。突然海中より平知盛の幽霊が現れ長刀を振るって行く手を阻みます。義経は  
 たち  
 太刀で立ち向かおうとしますが、弁  
 慶が数珠を持ち祈りを捧げ、や  
 がて知盛は海中へ消えます。  
 再び場面転換して傀儡師が山車の登場、最後に山猫を山車の前方に勢いよく飛ばして終演となります。



地方の祭礼行事の  
人形を奉納する山  
過半数が  
の仕掛け  
煩され  
いた糸  
し金、  
る人

東浦へ

武豊線

亀崎

神前神社

(衣浦大橋)

- からくりの解説／神官、巫女の形形とも内樋の上を移動し 手、足、頭をそれぞれ中段からの糸使いで操作します。釜の底には穴が開いており、その下の回転羽根で、紙ぶきを飛ばす仕組みです。
- 所作の解説／神官が御幣で釜を清める所作を3~4回繰り返した後、巫女が玉串を振り、お湯花を散らす御湯流しの所作となります。その際、紙ぶきを湯玉の飛び散る様を表します。

亀崎地区

|                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 祭礼日                     | 5月3日・4日            |
| おおよその上演時間と場所（潮汐により変更あり） |                    |
| 3日／午後 12:00～            | 海浜公園・午後 4:40～ 尾張三社 |
| 4日／午前 10:40～            | 尾張三社・午後 4:30～ 神前神社 |

- 製作者／鬼頭二三
- 製作年／天保12〔1841〕年
- エピソード／長らく途絶えていましたが、蔵で古い人形を発見した組員が、昭和48〔1973〕年に復元しました。平成元年に新調。
- からくりの解説／蓮台を廻す2体の唐子は糸からくりで、逆立ち・摺鉦を叩く蓮台上の唐子は指し金を用いて遠隔操作する離れからくり。
- 所作の解説／2体の唐子が蓮台を廻し、蓮台上でもう1体の唐子が片手で逆立ちを行い、もう一方の手で摺鉦を叩きます。

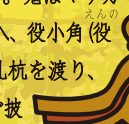


せいりゅうぐるま  
青龍車に  
あそ かなこ  
遊ぶ唐子の  
み  
ぐい見ても  
けにおもー  
きょう まつ  
今日の祭りや

31 輛のうち、20 輛の前棚と上山には、  
が、春まだ浅い3月下旬から初夏を  
す。各地区の氏神に人形技芸  
前棚とは二層の屋根の下層部分  
棚状に前へ張り出し、主要彫刻  
飾ります。子供数人で人形一体を  
る“隠れ遣い”が多いですね。こ  
り絵巻では特に、前棚人形  
光を当ててわかりやすく解説

●からくりの解説/役小角(伝634~)

は修験道の開祖とされ、大峯の山々で修行を  
していました。赤鬼と青鬼の夫婦を弟子にしてい  
る赤鬼が現れます。鬼はマサカ  
歩きます。そこへ、役小角(えんかく)  
と見渡しながら乱杭を渡り、  
そのことを鬼の前で披  
垂れ恭順の態度を示  
伎に再び下がり花びらが舞  
花力を再び披露します。赤  
猿演となります。



役小角 南山

●所作の解説／赤鬼が伏せた顔を上げ、緩やかな所作で迎りを動きます。行者が謡曲「春一番」に合わせ鬼を制する様に乱杭を渡ります。続いて桜の木が前方に回り、行者が左手で桜の木から下がる綾棒を掴みます。突然、行者は前方左外側より花吹雪の中を下ります。鬼も突如赤の面が青に変わり、マサカリを振り下ろしながら激しく体を左右に振ります。

●製作者／六代目 玉屋庄兵衛  
●製作年／大正 13 [1924] 年  
●由緒／以前は肩車をする唐子遊び  
●からくりの解説／亀に乗った浦島  
が乙姫から玉手箱を受け取り、玉手箱を  
開けると煙が出てお爺さんに変身します。  
浦島は翁の面を胸に随っており、糸によ  
り面を被ったり外せるようになっています。  
玉手箱の受け渡し の為、手首は可動式です。  
●所作の解説／浦島は亀に乗り左右へ動きます。  
その後、奥の大蛤より乙姫が玉手箱を持って現れ、  
互いの距離を調整し、玉手箱を受け渡します。箱を  
取った浦島は箱を開け、煙と共にお爺さんに変身  
腰を屈めて手の甲で腰を叩きます。その後、再び若  
浦島 に戻り「万歳」をして裸  
い舞い納めます。

浦島太郎

かきまき  
魚崎や  
ついでに  
月影慕う  
朝に蛸  
鯛も  
波路に通り  
浦島か

中切組力

乙川地区

祭礼日  
3月下旬の土・日曜日

●製作者／九代 玉屋庄兵衛  
●製作年／平成 19〔2007〕年 3 月  
●由緒／宝暦 5〔1755〕年に張展藩へ提出された『乙川村祭礼山車絵図』の南山の高欄にはからくり人形があり「役正角大様からくり人形」と詞書が記され、絵図以前にからくりがあったことが分かります。時代が下り、明治 36〔1903〕年に山車の老朽化に伴い、知多郡美浜町河和中組に山車一式を売却しました。この前後にからくりも失われたように、104 年ぶりに蘇りました。

おおよその上演時間と場所  
土曜／午前11:10頃～ 乙川八幡社  
日曜／午前 9:30頃～ 若宮神社・午後 3:15頃～ 乙川八幡社

南山 八幡車  
役山角大峰松

石橋翁 書龍車  
唐子遊ていしゆび  
遊あそびあそび

浦島